

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型重症児者デイサービス モアナ		
○保護者評価実施期間	2025年5月20日		～ 2025年6月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年5月20日		～ 2025年6月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	2025年7月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	どんなに重い障がいがあっても、地域に住み続け、ご家族と生活することができるように支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> 多職種(看護師、保育士、機能訓練担当職員など)が連携し、体調に合わせて活動できるように工夫しています。 その年齢で体験することは、どんなに重い障がいがあっても体験できるよう工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の個々のスキルアップが図れるよう、定期的な勉強会を実施します 同じ思いで支援にあたるよう、職員間の情報共有を密にします どの子も自己主張できるよう「たのしい、にぎやかな雰囲気」づくりに努めます。
2	児童発達支援、放課後等デイサービス、異年齢の交流ができます。大きな子をお手本にして自分もやってみたいという気持ちを引き出します	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動ではお友だちを意識するような活動をしています。 異年齢でも楽しめるような集団活動、年齢が高い子でもやってみたいと思うような制作活動を工夫しています。 高校生は長期休みに生活介護の作業体験をしています。 臥床時もお友だちが見えるように配置しています。 	<ul style="list-style-type: none"> お子さまが見通しをもってモアナでの活動を楽しめるよう工夫します。 スイッチや視線入力、体操、ダンスなど、自分で動かすことのたのしさを感じられるような活動を積極的に取り入れます。 ご家族のお困りごとや日々のちょっとした悩みを相談しやすいよう、アプローチします。事業所の取り組みで、解決の糸口となれないか職員で検討します。
3	言語でのコミュニケーションの難しい場合でも、その子の意思表出の方法で「自分で決める」「自分が主役」の思いを伝えられるよう支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい思いで動かすことを見逃さず、言語で返すことで伝えることができたという体験を積み重ねていくようにしています。 「やりたい人！」と声をかけ、自分からやりたいと発信できるようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ※次年度、児童発達支援の新規受け入れの予定はありません。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間で情報が周知されないことがある	経験年数(入職直後)、短時間の勤務職員、職種によっては、会議や打ち合わせへの参加がないこともあり、情報の共有が難しい場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会に参加できなかった職員への情報提供が十分できる方法を検討します 職員間のグループLINE、連絡ノートでの情報共有に努めます 放課後等デイサービスガイドライン、支援プログラムについての勉強会を実施します
2	保護者やごきょうだいの交流の機会が少ない	・(きょうだい交流について) 利用児者の年齢層が幅広いので、ごきょうだいの年齢増も幅広い。(0歳から大人まで)	<ul style="list-style-type: none"> ごきょうだい交流についてはニーズの確認をします 感染症対策をしながら、ごきょうだいにも一緒に活動に参加していただけるような取り組みができるのかの検討をします 保護者交流会は今後も計画していきます
3	活動によってはスペースが手狭に感じられる時がある	成長に伴い身長は高くなり手足が長くなっている、バギーのサイズはほぼ全員がサイズアップしている。	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓に努めます けがのないように活動できるよう、内容を工夫します

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型重症児者サービス モアナ

公表日 2025 年 7 月 19日

利用児童数 1

回収数 1

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。		1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。		1				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構成化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。			1			
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が行われていますか。	1					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	1					
保 護 者 へ の 説 明 等	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			1			
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	1					
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満 足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29 事業所の支援に満足していますか。	1					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
多機能型重症児者デイサービス モアナ		2025 年 7 月 日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援等のスペースとの関係で適切であるか。	13	1		(△1) 成長に伴い、活動時の安全に配慮が必要です。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14	1	急なお休みなどによる職員不足に対応できるよう、法人内管理者間で調整しています。	利用児が安全に楽しく過ごせるよう、今後も調整が必要です。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15				
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15				
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13			(△2)	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14			(△1)	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14			(△1)	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			第三者による外部評価は行っていません		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15				
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15				
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15				
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15				
	14 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15				
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	13	標準化されたフォーマルなアセスメントは、利用児には当てはまらないため、インフォーマルなアセスメントシートを活用しています	職員に周知できるよう学習会や会議を開催していきます	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14			(△1)	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14		未就学の利用児が年長児(来年度就学)1人のみなので、放課後等サービスの利用児と一緒に活動しています	(△1)	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14			(△1)	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14			(△1)	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	2	毎日職員朝の会を行っています。その日のコーディネーターを中心に、役割分担しています	朝の会に参加できない職員用に情報伝達の工夫をします	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	2	支援終了後に必ず実施できないのが現状です。支援終了まで勤務しない職員もいるので必要時は朝の会で共有しています	朝の会に参加できない職員用に情報伝達の工夫をします	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15				
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15				

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14	1	サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者参画します。必要があれば看護師や機能訓練専門職員が参画しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	1	現在利用しているお子さんには該当しません	(△2)
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	1	就学時に向けての情報共有は担当者会議を主としていますが、必要があればそれ以外でも情報も共有を行います。	(△3)
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言を受けられる機会を設けているか。	9	2	北区のセンターと必要時は相談できるよう連携をとっています	(△4)
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	11		(△2) コロナ以降なかなか難しいと考えています
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	14			(△1)
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	2		(△2) 専門性から考えると十分とは言えない
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13			(△2)
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14			(△1)
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	13			(△2)
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14			(△1)
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	4		(△1)
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14			(△1)
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15			
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	4		(△2) コロナ以降難しいと考えています 法人の行事のお知らせを、見えるところに掲示していきます
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14			(△1)
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14			(△1)
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14			(△1)
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14			(△1)
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14			(△1)
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14			(△1)
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14			(△1)
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14			(△1)
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14			(△1)